

特別支援学級に在籍する知的障害のある小学5年生の児童が、自信をもって活動に取り組むための合理的配慮

1. 事例の概要

A児は、B小学校の知的障害特別支援学級に在籍する、知的障害及び広汎性発達障害のある小学5年生である。本事例は、A児が自信をもって活動に取り組むための合理的配慮を検討したものである。

A児は、活動の手順が理解できていれば安心して活動に取り組むことができるが、自信のないことや新しい場面になると、それができずに活動を止めてしまうことがある。このため、活動に入る前に視覚的に手順や方法を伝えて見通しをもたせる、必要に応じて手順カードを活用する、活動の内容や手順をペアやグループの下級生に教えたり指示を出してまとめたりするという経験を重ねた。これらの取組により、A児が手順を自分で確認しながら安心して活動に取り組み、更に、下級生と関わりながら活動を繰り返すことでA児が自信をもつことができた。

キーワード 手順カードの提示、縦割りでのグループ編制、下級生との関わり

2. 児童の実態

A児は、B小学校の知的障害特別支援学級に在籍する、知的障害及び広汎性発達障害のある小学5年生である。学級の友達や担任及び担任以外の教員にも自分のことを積極的に話すことができるが、慣れていない人に対しては話しかける勇気もてずに顔を背けてしまうことがある。また、新しい場面や苦手意識のあることになると、自信のなさから周りの状況や状態に気付いていても気付いていないように装い、避けようとすることがある。そのようなときは声をかけても応じないことが多い。

3. 本事例に関する基礎的環境整備

- B小学校では、教育センターや教育事務所等へ相談したり、特別支援学校との情報交換を行ったりして、より専門的な指導を行うことができるようなネットワークの形成を図っている。【基礎1】
- B小学校の特別支援学級では、教科担任制による指導を行っている。また、各教科等の各題材においては、指導内容表をもとに、一人一人の児童がどの段階まで学習内容を習得できているのかを評価し、個に応じて指導できるようにしている。【基礎2】
- B小学校では、保護者と情報を共有しながら、個別の教育支援計画と個別の指導計画を作成している。個別の教育支援計画については、A児の保護者が家庭での様子や本人ができること、苦手になっていることなどの情報や将来像についての願いなどを聞き取った上で作成している。【基礎3】

4. 合意形成のプロセス

A児は、活動の手順を理解できていれば安心して取り組むことができる。これについてA児本人も実感しており、活動に入るときに手順が分かるカードを手元に置いてほしいと事前に伝えてくる。そこで、保護者には、①手元に手順がわかるものがあることで安心できること、②視覚的に提示すれば学習の流れが把握できること、と言うA児の実態について説明を行い、学習の際、カードを個別に用意することの合意を得た。

5. 合理的配慮の実際

- A児が新しいことや苦手意識のある内容に取り組むときは、言葉で内容や方法を説明するだけでなく、より丁寧に手順カードなどを活用することで見通しがもてるようにしている。また、不安になったときはどうすればよいかの対処方法を事前に知らせておくことで安心して取り組めるようにした。【合理①-1-1】
- A児が友達と望ましいコミュニケーションを図ることができたときは、どんな言葉やどんな行動がよかったのかを具体的に伝えている。また、望ましいコミュニケーションをとれなかったときは、教員と共に行動を振り返り、A児の気持ちを整理し、相手の気持ちや望ましい行動について伝えている。【合理①-2-1】
- A児は、繰り返し経験したり得意だと感じている活動においては、他の児童に声をかけながら工夫して取り組むことができる。このことを生かし、全学年合同の生活単元学習などの授業では、学年を縦割りにしたグループを編制し、A児が下級生に教えたり、指示を出したりする場面を設定している。【合理①-2-2】
- A児の実態や障害特性について、校内研修の場で共通理解を図っている。学級担任以外の教員もA児の学習指導を行うことがあるため、教員間で常に情報を共有し、A児の実態や発達段階に応じた指導の仕方や、活動の場について検討するようにしている。このことで、全ての教員がA児の様子を知ることができ、積極的な関わりをもつことができるようにした。【合理②-2】

6. 本事例の成果と課題

本事例の成果は、活動前に視覚的に手順や方法を伝えて見通しをもたせたことで、A児が手順を自分で確認しながら安心して活動に取り組めるようになったことである。また、下級生と関わりながら活動を繰り返すことで、A児の自信を高めることができた。

課題としては、社会を見据えて関わる対象の範囲を広げていく必要があると考える。そのためには、同級生や上級生とともに役割分担を考えて活動することや、校外での活動に参加する機会を増やし、地域の人々と交流する経験を積み重ねていくことが重要である。